

令和7年度 川内南小学校 総括評価表 3【健やかな体】

		自 己 評 価		学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策
<p>運動する子としない子の差が大きく、学年に応じた体力が身につけていない児童がいる。</p> <p>常時及び災害発生時に、自分の命を自分で守ろうとする意識を高く</p>	<p>Ⅲ) 健やかな体</p> <p>1 進んで運動しようとする意欲や、一人ひとりに応じた体力・運動能力の向上を図る。</p> <p>2 運動習慣の確立と望ましい生活習慣の形成を図る。</p> <p>3 防災・安全教育の充実に努め、緊急事態発生の際に適切な行動がとれるようにする。</p>	<p>評価指標</p> <p>1 児童・保護者アンケートによる「運動」の達成率80%以上 新体力テストの総合評価A・Bの児童の割合35%以上</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・「運動」の達成率は児童91%、保護者72%で、児童は指標を達成したが、保護者は指標を下回った。 ・新体力テストの実施し、28%の児童が総合評価A・Bだった。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者の意見</p> <p>○登校後や休み時間、外に出て遊んでいる児童がたくさんいることは、継続してほしい。</p> <p>○休み時間、他学年の児童と遊ぶ機会が増えているようで、活発に運動するようになっている。</p> <p>○休日前夜は、つい夜更かししてしまう。朝も遅くなりがちである。</p> <p>○「朝ごはん」の指標が、昨年度より下回っている。次年度の課題である。</p> <p>○世代交代もあり、スクールガードのなり手が減ってきている。取組方も含め、今後の課題である。</p> <p>○徒歩通学の児童が増加するよう、今後も児童が主体になってすすめる「学校へ歩いて150(いこう)+1運動」の取組を通じて、徒歩通学をさらに推進してほしい。</p> <p>○はぐぐみの会での防災学習を通して、地域の方と一緒に、東校舎屋上への避難訓練を行うことができたのは、大変有意義であった。今後も、学校と地域が手を取り合って、防災学習を進めていきたい。そして、いざというときに自らの命を守る具体的な行動をとることができる児童を育ててほしい。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>重点目標①について、特に高学年において、運動が得意で体力を向上させている児童と、そうでない児童との二極化が進んでいる。休み時間に運動遊びにチャレンジすることが重要であり、児童に楽しさを感じさせる機会を増やすことが必要である。また、体力テストでは、筋力・持久力・柔軟力・体力に課題が見られた。</p> <p>重点目標②について朝ご飯を食べることができている児童は多い。就寝時間に関しては昨年度より改善が見られた。しかし、授業中に寝ている児童も見受けられ、睡眠不足が影響を及ぼしていることが確認された。今後は、睡眠時間の確保と生活習慣の改善に向けた取り組みを強化する必要がある。</p> <p>重点目標③については、指標を上回る成果があり、避難経路を確認することができた。また、学校の屋上へ第二避難することができた。</p>
		<p>2 児童・保護者アンケートによる「早寝・早起き」「朝ごはん」の達成率80%以上</p>	<p>・「早寝・早起き」の達成率は児童75%、保護者71%であり、指標にはとどかなかったが、21時までに就寝する児童が増えた。 ・家庭の協力もあり、「朝ごはん」の達成率は児童92%保護者90%と、指標を大きく上回った。</p>		
		<p>3 児童・保護者アンケートによる「安全」の達成率80%以上</p> <p>児童・保護者アンケートによる「防災」の達成率80%以上 二次避難や引き渡し等を含めた避難訓練や幼稚園や地域との合同訓練を年1回は実施する。</p>	<p>・「安全」の達成率は児童96%、保護者98%と指標を上回った。 ・「防災」の達成率は児童95%、保護者97%と指標を上回った。 ・地域の方と一緒に、東校舎屋上への避難訓練を行った。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>1 学習の場の設定を工夫し、体育の授業中における運動量の確保に努める。</p> <p>新体力テストを全学年実施し、体力向上の意欲を高めるとともに、体操・水泳・陸上・長距離走の大会への参加を奨励する。 教職員間で新体力テストの計測、練習方法についての研修を行い、効果的な方法について共有を図る。</p> <p>2 体育的行事との関連を図り、外遊びを奨励することによって、体力の向上に努める。</p> <p>児童の生活習慣の調査を行い、家庭への啓発連携を進め、基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>3 ゲストティーチャーの活用</p> <p>4 学校防災計画や学校防災管理マニュアルの改善に努め、児童の安全を確保するための組織や体制づくりを進める。 さまざまな状況に応じた避難が迅速に行えるよう、地域や児童の実態に応じた避難訓練を実施する。 遊具の月1回の教員による安全点検及び児童への遊具の安全な使用方法について周知する機会を設ける。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>・授業の前半に持久走やおにごっこなどを取り入れ、運動量の確保に努めた。</p> <p>・新体力テストを全学年実施し、体力向上の意欲を高めるとともに、体操・水泳・陸上・長距離走の大会への参加を奨励した。 教職員間で新体力テストの計測、練習方法について広めた。</p> <p>・縦割り班での活動や委員会活動によって、外遊びを奨励し、体力の向上に努めた。</p> <p>・生活アンケートを2回行い家庭への啓発 連携を進め、基本的な生活習慣の定着を図ることができた。</p> <p>・ゲストティーチャーを招き、救急救命講習やヴォルティス教室、食育、薬物乱用防止教室を実施し、児童の健康意識を高めるとともに、教職員も含めた対応力の向上を図った。</p> <p>・学校内の遊具の安全確認を行い、安全な環境を整えた。 ・消火器マップを作成し、防災対策の強化を図った。 ・避難訓練を年間2回実施し、防災意識を行った。 ・川中防災委員会と連携し、地域と協力した防災活動を行った。</p>		